

マダラチズモンアオシャク伊豆諸島亜種

Agathia lycaenaria reducta

チョウ目
シャクガ科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

開張 27 ～ 38mm。両翅共に黄緑色。伊豆諸島のものは、前後翅の紫赤色斑の発達が悪く、痕跡程度に残るという特徴で他の亜種と区別される。化性などは不明であるが、周年連続して得られている。幼虫は、他の亜種と同じくキョウチクトウ科の植物を食べると推測される。

【分布の概要】

伊豆諸島

【伊豆諸島における生息環境】

樹林に生息する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

食樹と推測されるキョウチクトウ科の植物が生育する良好な樹林が本種の生息に必要と考えられる。開発による樹林の伐採が進むと、生息環境の減少が懸念される。可能な限り樹林環境を保全することが望ましい。三宅島では噴火の影響が大きい。

【関連文献】

岸田泰則 (編), 2011a; 岸田泰則・中島秀雄, 2011.



(執筆: 岸田泰則)

オナガミズアオ伊豆諸島亜種

Actias gnoma miyatai

チョウ目
ヤマモリガ科

伊豆諸島

NT

環境省

NT

【形態・生態】

開張 ♂ 80 ～ 90mm、♀ 90 ～ 100mm。大型で両翅共に青白色の美しい蛾である。伊豆諸島のものは翅型がオオミズアオに似ており、後翅の眼状紋も小さいことから本土に産する名義タイプ亜種とは区別される。年2化、5～6月と8月に出現する。幼虫はヤシャブシを食べる。

【分布の概要】

伊豆諸島

【伊豆諸島における生息環境】

樹林に生息する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

ヤシャブシが生育する良好な樹林が本種の生息に必要である。開発による樹林の伐採が進むと、生息環境の減少が懸念される。可能な限り樹林環境を保全することが望ましい。三宅島では噴火の影響が大きい。

【関連文献】

岸田泰則 (編), 2011a; 岸田泰則・中島秀雄, 2011.



(執筆: 岸田泰則)

オオアオシャチホコ伊豆諸島亜種

Syntypistis cyanea izuensis

チョウ目
シャチホコガ科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

開張 32 ～ 45mm。前翅に緑色部を持つ。伊豆諸島のものは、やや小型であること、緑色部が薄いことで本土の名義タイプ亜種と区別される。年2化、5～6月と8月に出現する。幼虫はエゴノキ科を食べる。

【分布の概要】

伊豆諸島

【伊豆諸島における生息環境】

樹林に生息する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

エゴノキ科の植物が生育する良好な樹林が本種の生息に必要である。開発による樹林の伐採が進むと、生息環境の減少が懸念される。可能な限り樹林環境を保全することが望ましい。三宅島では噴火の影響が大きい。

【関連文献】

岸田泰則 (編), 2011b; 岸田泰則・中島秀雄, 2011.



(執筆: 岸田泰則)

アカスジシロコケガ伊豆諸島亜種

Cyana hamata maenamii

チョウ目
ヒトリガ科

伊豆諸島

NT

環境省

【形態・生態】

開張 30mm 前後。伊豆諸島のものは、前翅の赤線、後翅の赤色部は欠き、一様に純白であることで本土の名義タイプ亜種と区別される。年2化、6～9月に出現する。幼虫は地衣類を食べる。

【分布の概要】

伊豆諸島

【伊豆諸島における生息環境】

樹林に生息する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

地衣類に覆われた良好な樹林が本種の生息に必要である。開発による樹林の伐採が進むと、生息環境の減少が懸念される。可能な限り樹林環境を保全することが望ましい。三宅島では噴火の影響が大きい。

【関連文献】

岸田泰則 (編), 2011b; 岸田泰則・中島秀雄, 2011.



(執筆: 岸田泰則)

キベリネズミホソバ伊豆諸島亜種

Ghoria gigantea flavipennis

チョウ目
ヒトリガ科

伊豆諸島

NT

環境省

【形態・生態】

開張 32～40mm。頭部は黄色、前翅は薄い黒色で前縁は薄黄色。伊豆諸島のものは、前翅が一様に淡黄色を呈することで、本土に産する名義タイプ亜種と区別されるが、個体変異があり、名義タイプ亜種と区別できない個体もいる。年1化、6～8月に出現する。幼虫は地衣類や苔類を食べる。

【分布の概要】

伊豆諸島

【伊豆諸島における生息環境】

樹林に生息する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

地衣類や苔類に覆われた良好な樹林が本種の生息に必要である。開発による樹林の伐採が進むと、生息環境の減少が懸念される。可能な限り樹林環境を保全することが望ましい。三宅島では噴火の影響が大きい。

【関連文献】

岸田泰則 (編), 2011b; 岸田泰則・中島秀雄, 2011.



(執筆: 岸田泰則)

エチゴハガタヨトウ伊豆諸島亜種

Asidemia inexpecta insulicola

チョウ目
ヤガ科

伊豆諸島

NT

環境省

【形態・生態】

開張 38～48mm。前翅地色は褐色。内・外横線や環・腎状紋は明瞭。伊豆諸島のものは、前翅の地色が暗色で銅色光沢を帯びることで、本土の名義タイプ亜種と区別される。年2化、5～6月と8～10月に出現する。幼虫はツゲを食べる。

【分布の概要】

伊豆諸島

【伊豆諸島における生息環境】

樹林に生息する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

ツゲが生育する良好な樹林が本種の生息に必要である。開発による樹林の伐採が進むと、生息環境の減少が懸念される。可能な限り樹林環境を保全することが望ましい。三宅島では噴火の影響が大きい。

【関連文献】

岸田泰則 (編), 2011b; 岸田泰則・中島秀雄, 2011.



(執筆: 岸田泰則)

ミヤケジマヨトウ

Atrachea miyakensis

チョウ目
ヤガ科

伊豆諸島

VU

環境省

【形態・生態】

開張 28～36mm。前翅は淡褐色。外横線は鋸歯状。環・腎紋はやや扁平。後翅は淡黄褐色。本土のものは別亜種とされていたが、その差異は微弱なので、最近シノニムとされ、亜種区分はない。年1化、6～7月に出現する。幼虫はタケ類のタケノコを食べる。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州

【伊豆諸島における生息環境】

竹林およびその周辺の樹林に生息する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

良好な竹林が本種の生息に必要である。開発による竹林の伐採が進むと、生息環境の減少が懸念される。可能な限り竹林を保全することが望ましい。三宅島では噴火の影響が大きい。

【関連文献】

岸田泰則(編), 2011b; 岸田泰則・中島秀雄, 2011.



(執筆: 岸田泰則)

【種名・学名などの準拠文献】

和名、学名、配列は以下に準拠した。

神保宇嗣, 2004-2008. 日本産蛾類総目録. <http://listmj.mothprog.com/>

【備考】 レッドリスト改定時における評価の根拠など補足情報

和名	備考
オナガミズアオ伊豆諸島亜種	環境省版レッドリスト(第4次)では、オナガミズアオ <i>Actias gnoma</i> が NT。

【関連文献】

岸田泰則(編), 2011a. 日本産蛾類標準図鑑 1. 学研教育出版. 353 pp.

岸田泰則(編), 2011b. 日本産蛾類標準図鑑 2. 学研教育出版. 417 pp.

岸田泰則・中島秀雄, 2011. 伊豆諸島の蛾類調査記録. 蛾類通信, (262): 297-307.